

演奏に
役立つ

One Point Lesson

PERCUSSION

パーカッション

安藤芳広 あんどう・よしひろ



- ◆出身 都立豊多摩高校、東京芸術大学
- ◆所属 東京都交響楽団、武蔵野音楽大学、なにわ《オーケストラ》ウィンス
- ◆趣味 食べる、読む、飲む、歩く
- ◆血液型 A型
- ◆星座 ふたご座
- ◆読者にひとこと 落ち着いて！でも進んでいこう
- ◆手紙の送り先 BJ 氣付

きみは音楽を「感じて」いるか？

■「流れ」がない！

ある学校での話。

ひととおりレッスンも終わり、帰り支度をしていた僕のところに、打楽器パートのO君がこの世の不幸をすべて背負ったかのような表情でやってきた(驚)。「基礎練習がうまくできなくて、トラウマになってしまった」とのこと。「また大げさな……」と思いながら、何があったのか聞いてみた。

その学校では、全員合奏の前にウォーミング・アップや音合わせのために、頭拍をバスドラム、裏拍をスネアドラムが担当するリズムに合わせて、全員がハーモニーを奏することになっているのだが(O君はそのことを「基礎練習」と呼んでいた)、ある日彼が裏拍のスネアを担当したところ、来ていたトレーナーに「ぜんぜんダメ！」と名指しで言われ、結局その日は何度やり直してもOKがもらえなかったとのこと。しかも彼は「ダメ」の理由がわからないと言うのだ。

さっそくO君に実演してもらったが、リズムが合っていないわけではなく、音は規則的に並んで聞こえてはくる。しかし、そこには一定の方向性がなかった。

簡単に言うと「流れ」がないのだ。彼は自分の叩くリズムを一生懸命「頭」で理解して、「ここだ」と考えた裏拍に打点を必死で入れていた。たとえるなら、ゲームの「太鼓の達人」状態。音符を標的のようにとらえ、まるで狙い撃ちをしているみたいだ。

そんなO君に、次の注文を出してみた。

- ①頭拍(バスドラム)をよく聞くこと。
 - ②リズムは頭で考えず「感じる」こと。つまり「リズムにのっかって！」ということだ(その結果、身体が動くのはOK)。
- この2点にだけ集中して、あとは何も考えず、意識するのは自分の「感覚」だけ。そして、「その感覚をいつでも思い出せるよう、自分の中に覚え込ませるようやってみて」とアド

バイスした。

すると、あっという間に自然な流れが、そして自然な音色までもが難なく生まれてきた。これなら大丈夫！

その後O君には会っていないが、その後の「基礎練習」では、裏拍担当の重責をきつと立派に務めていることだろう(あれで「一件落着」になっているよね、あのときは単なる偶然でうまくいったんじゃないよね？ O君！)

■「浮き沈み」を感じてみよう

音楽には必ず「その音楽ごとの自然な流れ」がある。また、流れがないと音の並びは歌(音楽)にはならない。しかし、流れをつかむのは難しいことではなく、その音楽を「感じる」ことさえできれば、自然に生まれてくるものなんだ。

サンバを例にあげると(なじみ深いのは《コパカパーナ》や《宝島》かな?)、よくあるのは妙にきまじめなで、まるでマーチ(行進)のようなサンバ(泣笑)。確かに同じようなテンポであることは多いけど、両者は違うものだよな？

マーチと同様に、その歩みは前に進んでいくけれど、サンバは行進のための音楽ではなく「踊りの音楽」。ゆえに、その一步一步(一拍一拍)は同じ重さではなく、2拍目と4拍目が沈む感じの独特なノリがある。だから、サンバといえれば必ず登場するスルド、あの大きく長い太鼓の生み出す深い音が聞こえるのは、より重さのほしい2拍目、4拍目だろ？ マーチとは違う「歩み」の浮き沈み、それを感じながら奏することで、サンバ特有のニュアンスや表情が生まれてくる。

大事なのは、その曲がどんな音楽なのかを知る=感じとること。それさえできれば《コパカパーナ》は自然とサンバに聞こえるし、逆に、それに合わせて小気味よい行進はできなくなるはず(笑)。

この「浮き沈み」だけど、「音楽にノって！」とか「ノリのいい音楽だ！」なんていうときに使う「ノリ」っていうのとはほぼ同じだと理解すればよいと思う。そしてサンバに限らず、その音楽特有の「浮き沈み」というのは、ポップスにはもちろん、クラシック音楽の中にもあってある。世界中の音楽を苦勞せずに聞くことのできる今だからこそ、ぜひいろんな音楽を聞き、それぞれの浮き沈み、その音楽の「ノリ」を感じとってほしい。

■頭だけで楽譜を読まないでほしい

ただ、「音楽は感じられれば、それでよい」かといえば、そういう簡単な話ではない。楽譜を読む力というのはやはり必要です。そして難しいのは、楽譜はやはり頭だけでは読めないということ。というより、「先に頭で読み込んでほしくないんだけどなあ」というのが、僕の言い続けてきたこと(=わかってほしかったこと)でもあるのかもしれない。

なぜなら、修行中のみんなが楽譜(音楽)を先に頭で読み込んで(考えて)しまうと、もうそれで終了しちゃうんだもん。いや、本当はそこから新たなステップが始まってもいいんだけど、でもそういう「頭で勉強して満足して終了しちゃう人」って、多いんだよ。せつかく音楽と向き合っても、それを感じることをしないから、「音楽する」ところまで至らない。逆だと思っただよな。

まず目の前の音楽を自由に楽しみ、しっかりと感じてみる。自然と生まれる流れに乗って身体が動けば、パチさばきだって自然に、必然的にうまくはこぶはず。そうなれば、逆にもっと余裕を持って音楽とも向き合えるだろうし、楽譜(音楽)の中に読みとれることも増えるに違いない。ある程度手が動くようになってからこそ見えてくる(目がいく)、取り組めることだってあるわけで……。やっぱりこの順番の方が、確実で、かつ歩きやすい道だと思っただよな。